

くさしぎ便り No.4

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2013年3月発行

「くさしぎ便り」第4号をお届けします。

あきる野市の魅力の一つが、緑濃い山々。しかし林業の衰退とともに、後継者不足が深刻になっています。そのため山の手入れが行き届かず、スギ花粉が大量飛散するハメにも…。美しく、しなやかで、強い山をどうしたら再生できるか、お聞きしてみました。

「あきる野っぱら 学びの場 その4」 ご報告

2月25日あきる野ルピアにて開催

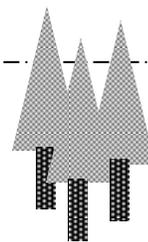
～林業の現場から考える～

緑のダムを守るには



話題提供者 宇賀地岩男さん

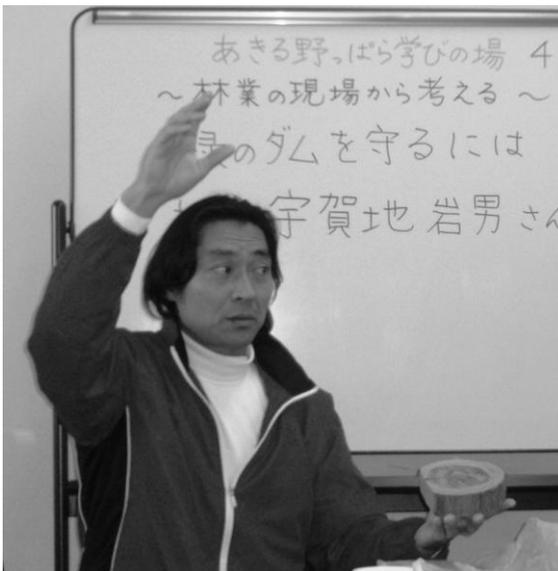
- うがちいわおさんプロフィール ●
あきる野市出身。生まれ育った秋川の自然を守りたいとの思いから、水源林を保全するために、林業の仕事に就く。東京都森林組合所属。2004年度より「多摩川水源森林隊」で、作業指導に当たっている。



宇賀地岩男さんのお話

私は五日市で育って、小さい時から秋川で遊んでいたこともあり、川が好きです。見ていだけでもいいですね。子どもができて杉並から実家のそばに戻ってきて、川の源である山で仕事をしたいと思い、森林組合に入りました。今は都水道局の多摩川水源森林隊でボランティア養成の仕事をお手伝いして8年くらいになります。今回は、山仕事の内容を中心にお話しします。

山の仕事は、まずは植林してからの下草刈りです。少し育ってくると、太陽の光を地面に届かせる枝打ちをし、いい木を残していく間伐をします。10年たつと木の高さは5～6mになり、次の10年くらいで10～15mになります。その間も枝打ち、間伐などの作業を繰り返して手をかけていく必要があります。ただ実際のところ、戦後に杉檜を植え過ぎて、本来やるべき山仕事の手が回っていないという現実があります。必要な作業が抜けてしまっていると、森に光が入らない、草



年輪を見ると、枝打ち(余分な木の枝を切り落とす)をしてある箇所がわかると宇賀地さん

が生えないのです。広葉樹だと葉が落ちてスポンジのように吸水力のある土になりますが、今の植林地は土がむき出しになって、雨が降ると流れやすい状態になっています。

山に手が入らなくなり荒れた原因は、コストの面から輸入材が使われるようになって国産材が売れなくなったこと、建設現場の足場なども以前使われていた木材は今は見かけられないなど、山の木の需要が激減してしまったことがあります。植え過ぎてしまった杉檜の間伐を、税金である補助金で行っているのが現状で、良い木材を育てるにはそれだけ手をかけないといけないのですが、今はそれができていません。

そういう中で、森の手入れを行うボランティアを都水道局が募集して森づくりに参加してもらっています。わりあい人気があって、多摩川水源森林隊には現在およそ1000人の人が登録しているそうです。

参加者の質問に答えて

Q. 森林ボランティアに参加した経験があります。林業に興味のある若者は多いと思うのですが、若者の就職口の可能性として林業はどうですか？

A. 仕事がそれほど多いわけではありませんが、やりたい思いが強ければチャンスはあると思います。会社を立ち上げた人もいます。賃金は安いかもしれませんが、食べていくことは可能だと思います。

Q. 今、山の持ち主さんは、林業として木を売ってお金になるのでしょうか？

A. 自分の山を自分で面倒をみて育てていくというのが本来の、本当の林業ですが、今はそういうことは本当に少ないです。手をかけて育てた良い木を高級材として売って

る人もいますが、実際には手を入れられず、助成金で間伐しているというのが現実です。

Q. 植え過ぎた木の手入れが出来ずに、花粉症の問題などが起きていますが、現場から何か対策が考えられるでしょうか？

A. 都の事業として、山の一部だけ杉を全部伐って、そのあとに花粉の少ない種類の杉を植えるというのをやっていますが、私は一部の地域だけ全部伐るというよりも、広い範囲で全体的に、やや多めの間伐をするというほうがいいと思います。山に入ると、全く間伐・枝打ちをしていない木や、生長が遅れて立ち枯れしている木などを多く見ますし、倒れて死にかかっているような木が花粉を多く出すと言うような話も聞きます。とにかく木を植え過ぎてしまったと強く感じます。

Q. 今後、杉檜林を広葉樹に植え替えていくという動きはありますか？

A. 水源としての森のためにも、動物のためにも、できればもっと広葉樹にという動きはあり、それに補助金も出ます。

山に入ると、炭焼き窯の跡があちこちにあります。炭を利用していたということもありますが、その山が広葉樹林だったということです。最近奥多摩でも、動物の農作物への被害が言われていますが、広葉樹林であれば、山は動物のえさも豊富になり、彼らが里に出てくることも少なくなるのではと思います。

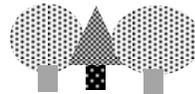
最近の林業は機械化が進んでいて、チェーンソーや、平らなところは重機も入ります。しかし奥多摩は日本の中でも傾斜がきついとされていて、能率の悪いところですが、木の性質を考えて、その木に合っている環境のところに植えていく必要があります。山の尾根などは杉檜に向いていません。今後は山の前面のいいところには杉檜を育て、奥の場所に

は広葉樹をと山の性質を考えて植えていったらいいのではと思います。

Q. 水源林は公有地が多いので広葉樹が多いのですね。あきる野市では山の90%が私有地なので、広葉樹への植え替えの動きは難しいのでは？

A. 共有林という形になって、持ち主が代替わりして地元にはいない場合など、まとめるのに大変なようです。都としてまとめていくという動きも少しずつですがあるようです。

あきる野市でも一部の共有林が港区や新宿区と契約して、市民が年に3、4回、山の手入れにボランティアで入ったり、広葉樹を植えるということをやっているようです。



そして…

質問をする中で、私たちが考えていかなければならない問題がいろいろ出てきました。

山には、生活の糧としての経済的な面と環境としての面があります。そのバランスを取りながら、山を生かしていくにはどうしたらいいのでしょうか？多摩地域に住んでいる私たちとしては身近で応援できることをしていきたい。あきる野市の6割が森林だとすれば、その環境を生かすこと、地元の木を地元で使うことなどを考えていきたい。間伐材の利用、ペレットストーブなどの話も出ました。内装に地元産の木材を使った幼稚園の話も出ました。建築資材とすれば、外国産材に負けない国産材としてのアピールも必要だとの意見も出ました。

宇賀地さんは、山の現状として手入れされていない木が多いが、国産材として良い木を作るには手をかけることが必要、人間の手で植えたものだから伐採されるまで人間が世話をしなければならぬと強調されました。その上で、山の中に入るとストレスは本当に少ない。山の魅力をもっとアピールしたいとも話されました。身近な山と私たちをつなぐものは何か、今後も注目していきたいと思います。(あ)

「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。昨年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

昨年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どのような市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- ①市民といっしょに市政を考える。
- ②市の現状と問題点を市民に情報発信する。
- ③開発優先ではなく、環境優先(放射能への危機感を持つ)。
- ④マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者になりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

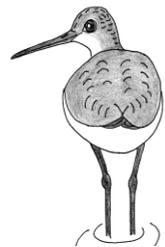
(^_^)/ 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? ひとりの市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・ e-mail kusasigi@nifty.com

・ 〒190-0154 あきる野市高尾 182-1

TEL&Fax 042-596-4569(佐橋)



☆ ★ くさしぎニュース ☆ ★

★「くさしぎ」会員、辻よし子さんのホームページができました。「くさしぎ」の思いがいつばいつまったホームページです。一度、のぞいてみてください。

ホームページのURL → http://www.geocities.jp/yt_ayumukai/

★「あきる野つばら 学びの場」で、あきる野ツウになりませんか? お待ちしています。

《これまでの学びの場のご紹介》

第1回 「原発事故と放射能/あきる野で動いて見えてきたもの」 話し手 辻よし子さん

第2回 「ごみ問題から行政と私たちの生活を見直す」 話し手 佐野泰道さん

第3回 「入れる?入れない?あきる野保育園事情」 話し手 溝口義朗さん(ウッディキッズ園長)

第4回 「林業の現場から学ぶ 緑のダムを守るには」 話し手 宇賀地岩男さん(東京都森林組合)